

商品名 ポリスチレンスルホン酸Ca「NP」原末 添付文書情報

一般名	ポリスチレンスルホン酸カルシウム	薬価	9.30
規格	1g	区分	
製造メーカー	ニプロ	販売メーカー	ニプロ
薬効	2. 個々の器官系用医薬品 21. 循環器官用薬 219. その他の循環器官用薬 2190. その他の循環器官用薬		

ポリスチレンスルホン酸Ca「NP」原末の用法・用量

〈経口投与〉

通常成人1日15～30gを2～3回にわけ、その1回量を水30～50mLに懸濁し、経口投与する。なお、症状により適宜増減する。

〈注腸投与〉

通常成人1回30gを水または2%メチルセルロース溶液100mLに懸濁して注腸する。体温程度に加温した懸濁液を注腸し30分から1時間腸管内に放置する。液がもれてくるようであれば枕で臀部挙上するか、或いはしばらくの間膝胸位をとらせる。水または2%メチルセルロース溶液にかえて5%ブドウ糖溶液を用いてもよい。

ポリスチレンスルホン酸Ca「NP」原末の効能・効果

急性腎不全及び慢性腎不全に伴う高カリウム血症。

ポリスチレンスルホン酸Ca「NP」原末の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 重大な副作用：

- 1) 腸管穿孔、腸閉塞、大腸潰瘍（いずれも頻度不明）：これらの病態を疑わせる高度便秘、持続する腹痛、嘔吐、下血等の異常が認められた場合には、投与を中止し、聴診、触診、画像診断等を実施し、適切な処置を行うこと。

2. その他の副作用：

- [1] 過敏症：（頻度不明）発疹。
- [2] 消化器：（5%以上）＊便秘（経口）、（0.1～5%未満）悪心、嘔気、食欲不振、胃部不快感（経口）、（頻度不明）便秘（注腸）。
- [3] 電解質：（0.1～5%未満）低カリウム血症（経口）、（頻度不明）低カリウム血症（注腸）。

発現頻度は副作用頻度調査を含む。＊）。

ポリスチレンスルホン酸Ca「NP」原末の使用上の注意

【禁忌】

腸閉塞の患者〔腸管穿孔を起こすおそれがある〕。

【重要な基本的注意】

1. 腸管穿孔、腸閉塞、大腸潰瘍があらわれることがあるので、高度便秘、持続する腹痛、嘔吐、下血等の異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
2. 本剤を経口投与するにあたっては、患者に排便状況を確認させ、便秘に引き続き腹痛、腹部膨満感、嘔吐等の症状があらわれた場合には、医師等に相談するよう指導すること。
3. 過量投与を防ぐため、定期的に血清カリウム値及び血清カルシウム値を測定しながら投与すること。また異常を認めた場合には、減量又は休薬等の適切な処置を行うこと。

【合併症・既往歴等のある患者】

1. 便秘を起こしやすい患者：腸閉塞、腸管穿孔を起こすおそれがある。
2. 腸管狭窄のある患者：腸閉塞、腸管穿孔を起こすおそれがある。
3. 消化管潰瘍のある患者：症状を増悪させるおそれがある。
4. 副甲状腺機能亢進症の患者：イオン交換で血中カルシウム濃度上昇するおそれがある。
5. 多発性骨髄腫の患者：イオン交換で血中カルシウム濃度上昇するおそれがある。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

【高齢者】

減量するなど注意すること（一般に生理機能が低下している）。

【相互作用】

2. 併用注意：

- [1] ジギタリス剤（ジゴキシン等）〔ジギタリス中毒作用が増強されることがある（本剤の血清カリウム値低下作用による）〕。
- [2] アルミニウム、マグネシウム又はカルシウムを含有する制酸剤又は緩下剤：
 - ①. アルミニウムを含有する制酸剤、マグネシウムを含有する制酸剤又はカルシウムを含有する制酸剤又はアルミニウムを含有する緩下剤、マグネシウムを含有する緩下剤又はカルシウムを含有する緩下剤（乾燥水酸化アルミニウムゲル、水酸化マグネシウム、沈降炭酸カルシウム等）〔本剤の効果が減弱するおそれがある（非選択的に併用薬剤の陽イオンと交換する可能性がある）〕。
 - ②. アルミニウムを含有する制酸剤＜服用＞、マグネシウムを含有する制酸剤＜服用＞又はカルシウムを含有する制酸剤＜服用＞又はアルミニウムを含有する緩下剤＜服用＞、マグネシウムを含有する緩下剤＜服用＞又はカルシウムを含有する緩下剤＜服用＞（乾燥水酸化アルミニウムゲル＜服用＞、水酸化マグネシウム＜服用＞、沈降炭酸カルシウム＜服用＞等）〔全身性アルカローシスなどの症状があらわれたとの報告がある（腸管内に分泌された重炭酸塩の中和を妨げる）〕。
- [3] 甲状腺ホルモン製剤＜服用＞（レボチロキシン＜服用＞等）〔併用薬剤の効果が減弱することがあるので、服用時

間をずらすなど注意すること（本剤が消化管内で併用薬剤を吸着することにより、これらの薬剤の吸収を阻害すると考えられる）】。

【適用上の注意】

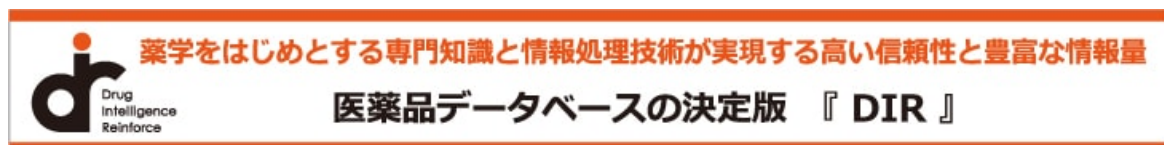
1. 薬剤交付時の注意：〈経口投与〉経口投与時、消化管への蓄積を避けるため、便秘を起こさせないように注意すること。
2. 薬剤調製時の注意：〈注腸投与〉動物実験（ラット）で、ソルビトールの注腸投与により腸壁壊死を起こすことが報告されており、また、外国においてポリスチレンスルホン酸型陽イオン交換樹脂のソルビトール懸濁液を注腸し、結腸壊死を起こした症例が報告されているので、本剤を注腸する際にはソルビトール溶液を使用しないこと。
3. 薬剤投与時の注意：〈注腸投与〉本剤注腸投与後は、腸管への残留を避けるため、必ず本剤を排泄させる（特に自然排泄が困難な患者においては、適切な方法を用いて本剤を腸管から取り除く）。

【その他の注意】

1. 臨床使用に基づく情報：
 - 1) 本剤のソルビトール懸濁液を経口投与し、結腸狭窄、結腸潰瘍等を起こした症例が報告されている。
 - 2) 類薬（ポリスチレンスルホン酸ナトリウム）で、そのソルビトール懸濁液を経口投与し、小腸穿孔、腸粘膜壊死、大腸潰瘍、結腸壊死等を起こした症例が報告されている。
 - 3) 本剤とアルギン酸ナトリウムとの併用により、消化管内に不溶性のゲルを生じたとの報告がある。

【保管上の注意】

室温保存。



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.